

2024年/8月学習会の案内 第66回「資本論を読む会」

8月29日(木曜日)

午後6時30分-Zoomで開催

「第24章 第3節~第5節」

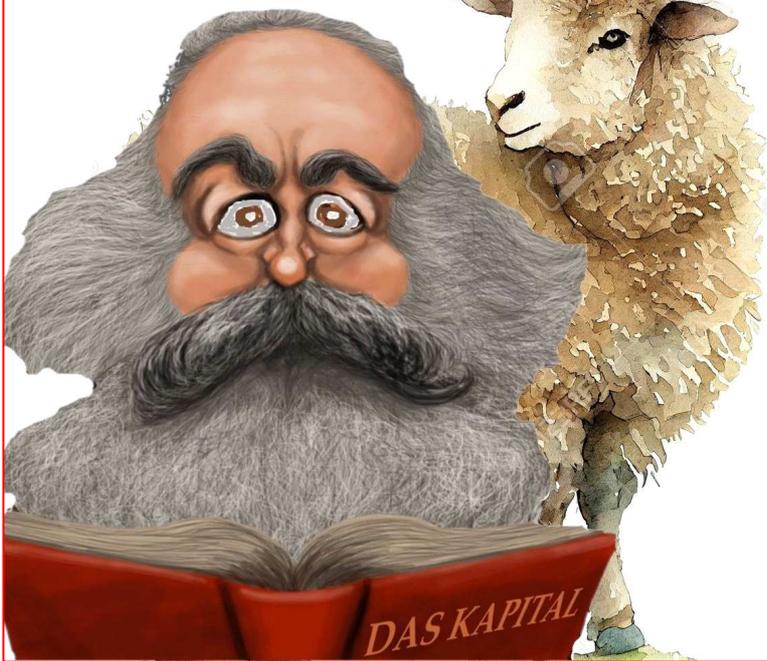
[岩波文庫(三)p372-p395]。

7月30日の「読む会」には12名が参加しました。資本論第一巻を終わらせるまでには後4回の会合が必要ですから、年内には終わる予定です。最近は「ともかく完読しよう」という参加者の熱意(執念?)すら感じます。

今回は「第1節 本源的蓄積の秘密」「第2節 農村住民からの土地の収奪」をやりました。34頁ありましたが、読むだけでも長いですが、内容は論理的な難解さを感じませんでしたが、歴史的背景などが中心の議論になりました。

左図にも紹介しましたが、トマス・モーアが『ユートピア』の中で語る「羊が人間を食い尽くす」(p349-注193)とも言われた資本主義の本源的蓄積は、農民から土地を収奪して羊

羊が人間を食う!?



牧場に変えてしまう「囲い込み運動」(エンクロージャ)でした。有名な言葉ですから「アーン聞いたことある!」。第1次の囲い込み運動は封建的支配階級も、その暴力的な収奪に「議会の禁止決議」を出すなどしたようですが、第2次では社会的な反対もなくなり議会在立法によって促進したようです。前回はアイルランド移民・民族問題がありましたが、今回はスコットランドの「人間の清掃」(農村から放逐されるゲール人)が象徴的でした。8月には前回紹介した「その後のピケティ」別教室を開きますが、レポートがしっかり用意できるか心配ですが、ともかくトライしてみることが大事ですね。参加者からは次回の「資本論を読む会」も休まずに8月29日に第66回を開く決意が聞かれました。次回は第3節から第5節までをやります。皆様のご健闘を祈念しています。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.cocacn.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから-anak

第24章 いわゆる本源的蓄積 第1節 本源的蓄積の秘密

※資本主義の発生

- ・資本主義的蓄積に先行する一つの「本源的蓄積」。本源的蓄積は、生産者と生産手段との歴史的分離過程。(二つの異なった種類の商品生産者)一方に貨幣、生産手段、生活手段の所有者、他方に自由な労働者。
- ・収奪の歴史が典型的な形態をとるのはイギリスのみ。我々がイギリスを例にとるのもそのため。

第2節 農村住民からの土地の収奪

- ・変革の序曲は…15世紀末から16世紀の最初の数十年間に起こった。封建家臣団の解体が、無保護なプロレタリアを労働市場に投げ出した。王権と大封建領主が、農民を暴力的に駆逐し、共同地を横領した。
- ・この原動力は…フランドルの羊毛工場手工業の勃興と羊毛価格の騰貴
- ・18世紀は、法律自体が人民共有地の略奪手段となった。この盗掠の議会的形態は「共同地囲い込み法案」
- ・教会所領の掠奪、国有地の詐欺的譲渡、横領的で仮借のない暴行をもって行われた封建的および民族的所有の近代的所有への転化、それはいずれも本源的蓄積の牧歌的方法だった。

(参考)囲い込み運動(エンクロージャメント)

- ・15世紀から16世紀-第1次エンクロージャメント。17世紀後半から18世紀に第2次エンクロージャメントと言われる
- ・第1次…農民の離村と賃金労働者化(本源的蓄積)。第2次の時は農業革命に伴って商業的穀物生産が普及し、農民の土地が囲い込まれる。第1次エンクロージャメントは議会で禁止決議など、一定の抑止が、第2次は社会的な反対もなくなり、議会在立法によってそれを促進するようになり、資本主義化が一気に加速することになる。

Special Study No.2 8月26日(月) pm6:30-

Theme 「その後のピケティ」

主催=「読む会」 レポーター・SatoJin 他